



日本歯科色彩学会
http://www.jacd-dc.jp

日本歯科色彩学会 ニュースレター

NO. 63

日本歯科色彩学会事務局 朝日大学歯学部
口腔機能修復学講座 歯科保存学分野 歯冠修復学 内
〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

発行人/堀田正人 TEL・FAX/058-329-1442 発行日/平成31年3月29日

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

日本歯科色彩学会会長の退任にあたり

日本歯科色彩学会会長 堀田正人

(朝日大学歯学部口腔機能修復学講座 歯科保存学分野歯冠修復学)

片山直前会長から引き継ぎ、2015年4月より、2019年3月末まで(2期4年間の任期)を日本歯科色彩学会第6代目の会長として、会員の皆様には大変お世話になりました。こうして無事に、会長の任期を満了することができましたことを心より御礼申し上げます。とは申しましても、未熟な点や、至らなかった点などが、多々あったであろうと思えます。ご迷惑をおかけしてしまったこともあったかと思えますが、皆様からの温かいサポートを受けて何とか任期を全うすることができました。過ぎてしまえば早いものですが、充実した4年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

私は日本歯科色彩学会が1993年に日本歯科色彩研究会として発足した時に入会し、会員歴として26年となりました。2018年度には日本歯科色彩学会の会員数は150名前後になってしまいました。しかし、会員一人一人に歯科の色彩に対する熱い思いが感じられる学会であり、この学会の会員になって歯科の色彩の面白さと同時に深さと広さを感じる26年間でもありました。

歯科医学の研究においては、すでに始まっているグローバル化の波が加速されており、発信する研究

は国内だけでなく、国際的な視点で高く評価されるものでなければならなくなって来ております。また、歯科医学の研究もこれまでの細分化から分野間の連携・融合の研究が増加してきており、歯科医学以外の分野との連携が必要とされています。益々、学会が学際的学術団体として生き残るためにはハードルが高くなってきました。

歯科の色彩、審美の領域の研究においても同様です。このような状況において、会長に就任した際には歯科の色彩、審美の領域を成熟させ、学際的学術団体としての存在感を高め、日本歯科色彩学会の認知度を上げるためには質の高い論文を歯科の色彩に掲載し、魅力ある講習会・見学会を開催して充実させたい。さらにはそれらを世界に発信し、次世代を担う若い会員の活躍できる場を提供し、世の中に歯科の色彩の魅力を理解してもらう機会を多く設けなければならないと思っていました。しかし、私にとって、あまりにもハードルが高く、実行、達成できたかという十分なことができず、自省しております。

4月には新しい年度(新元号)を迎え、第7代目会長新海航一先生をはじめとした新しい役員の方

生方の益々のご活躍により、日本歯科色彩学会の活動が新たなステージに発展していくことを祈念しております。そして、社会に対して歯科の色彩、審美の領域を総合的に広く、情報発信できるように私たち会員、一人一人が学会のために積極的に協力して、次世代へバトンタッチしなければならず、私も日本歯科色彩学会の将来を明るいものにするため

に、微力ながらお手伝いしなければならないと思っております。最後になりましたが、日本歯科色彩学会の副会長をはじめ、役員の皆様、事務局を支えて頂いた朝日大学歯学部歯科保存学分野歯冠修復学の教室員の皆様には大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

故 細矢由美子先生を偲んで

日本歯科色彩学会副会長 新海航一 (日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)

本学会でご活躍されていた細矢由美子先生が、昨年11月にご逝去されました。あまりにも急な悲報に驚きを隠せませんでした。超高齢化社会において69歳というまだ若い年齢でご永眠され、本学会にとっても非常に貴重な人材を失ってしまったことは残念でなりません。ご葬儀ならびにお別れ会は茂原市の博全社茂原儀式殿において11月21日に厳かに執り行われました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

細矢先生は、長年にわたり本学会の常任理事としてご尽力され、2007年から2年間、副会長を、2009年から昨年まで講習会委員会委員長を務められました。とくに、講習会の企画運営に手腕を発揮し、本学会の講習会の充実と学術面における発展で多大な功績を残されました。常任理事会では、いつも建設的なご意見を積極的に述べられ、周囲が圧倒される場面も多々ありましたが、それによって本学会が発展して来られたのはいうまでもありません。

細矢先生は1973年に東京歯科大学をご卒業され、同大学大学院（小児歯科学）を修了されました。その後、同大学小児歯科学講座に在籍、1978年に同講座の講師に、1983年には長崎大学歯学部小児歯科学講座の助教授に就任されました。また、1995～1997年の2年間、テキサス大学サンアントニオ歯学部にも客員助教授として留学され、世界に向けて研究の視野を広げられたようです。Society for



故 細矢由美子先生

Color and Appearance in Dentistry (SCAD)という国際的な学術団体がありますが、細矢先生はSCAD Asia/Pacific Regional Councilorとして、その国際学会に創設時よりずっと参加され、発表されていたようです。IADRにも積極的に参加され、学会場や空港でお姿をよくお見掛けしました。歯科領域における色彩研究においてグローバルな視点からも情報を収集されていたため、あのように豊富な知識をおもちだったのだらうと推察します。

日本歯科保存学会にも所属され、学術大会ではいつも積極的に質問されていたことを記憶しております。もちろん、本学会の学術大会でも核心を突く質問をされ、歯や歯科材料の色彩研究を行う上で参考になる点が多々ありました。私が大会長を仰せつかり、第22回日本歯科色彩学会総会・学術大会が

新潟市にある本学において 2015 年 7 月 26、27 日に開催されました。その学術大会の特別講演において「研究における測色法について」という演題で細矢先生からご講演をいただきました。大会プログラムを作成するにあたり、色彩研究を実施する上で最も重要なのは測色法であると認識していたので、歯科領域の測色法に造詣の深い細矢先生からは是非ご解説いただきたいと思いました。そこで、事前にご講演の内諾を得るために細矢先生にお会いしたのですが、運悪く足を骨折されたということで車椅子

に乗っておられました。この状態ではお断りされると思いながら恐る恐るお話したところ、笑顔でご講演をお引き受けいただきました。そして、学術大会でとても分かりやすく測色法についてご講演され、その講演内容は当講座においても色彩に関する研究で非常に役立っております。

本学会発展のために理事はじめ会員一同が一丸となり、細矢先生から叱責されないように、今後もたゆまない努力が必要だと思っております。合掌

第 27 回日本歯科色彩学会・学術大会 大会長挨拶

大会長 阪 秀樹
(埼玉歯科技工士専門学校)

第 27 回日本歯科色彩学会総会・学術大会を 2019 年 7 月 27 日(土)から 28 日(日)までの 2 日間にわたり、埼玉県川越市「ウエスタ川越」にて開催させていただくことになりました。埼玉歯科技工士専門学校としては 2002 年の第 10 回大会、2011 年の第 19 回大会に引き続き 3 回目となります。このような伝統ある学会を担当させていただきますことは大変に名誉なことであり、会員の皆様に深謝を申し上げます。

今回は地方都市である川越が会場になります。ご承知の通り、埼玉県はどの都道府県と比較しても団塊の世代の方々が多く、今後は全国トップクラスのスピードで高齢化が進行すると見込まれています。後期高齢者人口が急速に増加し医療・介護の需要が増大する一方で、高齢者の約 8 割は社会参加が可能な元気な高齢者であり、医療や介護が必要となった場合でも住み慣れた地域で安心して生活できる社会をつくることが求められています。元気な高齢者が健康で豊かな生活を実現するためには歯科医療の果たす役割がますます重要視され、若者から高齢者まで社会参加の機会が増えることで歯科色彩学に求められる期待度も高まりを見せることと確信しています。

昨年の第 26 回学術大会における会員によるポスター発表では、保存・補綴から矯正にいたるまで歯科を横断した幅広い分野の色彩学的な研究発表の場となっており、歯科医師、歯科技工士および歯科衛生士による歯科医療従事者に限らず研究者や教育者、学生など多方面で活躍される皆様が一堂に会して研究成果を討議し、情報交換できる学究の場でありました。本大会でも是非、会員諸氏による多数のご発表を期待いたします。

また、本大会は前回の大会を踏襲しまして、1 日目(7 月 27 日、土曜日)午後から理事・評議員会、会員懇親会を開催し、2 日目(7 月 28 日、日曜日)午前中に総会、ポスター発表、午後から講習会を開催するプログラムを組んでいます。

特別講演では、近年、めざましく普及しているモノリシックジルコニアについて、昨年、「モノリシックジルコニアのいま」(医歯薬出版)を上梓されました白石大典先生(有限会社 湘南セラミック)に講演をお願いいたしました。「モノリシックジルコニアの活用と色調再現」と題したこの講演は、日常臨床で直面されるジルコニア・クラウンのシェードマッチングに関する諸問題の解決に役立つものと確信しています。

講習会 1 は、「モノの見えに影響を与える照明と現在の主流光源 LED の基礎」をテーマに岩井 彌先生（パナソニック株式会社）よりご講演いただきます。

講習会 2 は、「安全につながる色使いー多様な色覚特性の理解とその対応ー」をテーマに名取和幸先生（一般財団法人日本色彩研究所）よりご講演いただきます。

本大会は、前回大会まで別途有料にて実施されていた上記講習会を大会参加費の中にすべて含めて実施いたします。折角行われる有意義な講習会です

ので大会参加者には均しく受講していただきたいとの願いから、大会参加費の見直しもはかりました。

川越は大宮より電車で 20 分くらいの郊外に位置していますが、江戸の風情を残す「小江戸」として観光地となっています。会場であるウェスタ川越は、川越駅より至近で、施設も新しく充実しています。

夏の暑い盛りの開催ではございますが、川越の蔵の街並み等の観光も併せて、奮ってのご参加、ご発表をお願いいたします。

大会ホームページ <https://jacd.dtcs.ac.jp/>

2018 年度 日本歯科色彩学会 見学会報告

見学会委員会 委員長 中澤 章
(東京都・中澤歯科クリニック)

2019 年 2 月 24 日、表参道にあるフロムハンドメイクアップスクール、美・ファイン研究所見学会が開催されました。年度の変わり目、学校行事の合間でしたが、各地から 31 名の参加がありました。講師の小林照子先生は、1935 年のお生まれで、株式会社コーセーにて 35 年以上にわたり美容について研究され、1991 年コーセー取締役・総合美容研究所所長をご退任後、56 歳で美・ファイン研究所を設立されています。現在はフロムハンドメイクアップアカデミー校長・青山ビューティー学院高等部校長、ジャパンメイクアップアーティストネットワーク理事長、エンゼルメイク研究会副会長を務められる傍ら、ボランティア活動も数多くされています。当日は先生の 84 歳のお誕生日。記念すべき見学会となりました。その間、政財界、芸能界の方々のメイクを数多く担当され、当日も天皇陛下御在位 30 周年の式典で、スピーチをされる元女性外務大臣のメイクを朝早く済ませ、そして午後からの見学会では、1 時間半のご講演後、参加者のメイクを 1 時間半にわたって解説を交えながらデモしていただきました。その間見学者は着席でしたが、先生はずっと立ちっぱなしで、驚くべきパワーでした。

まずはプロのメイクアップアーティストや若手の育成のために設立した 2 つの学校、「フロムハンド」メイクアップアカデミー、青山ビューティー学園高等部、そして美ファイン研究所の見学でした。才能ある人材を確保して育てるために、学校をご自身で作ったそうです。奨学基金も作っています。普通の学校では排除されてしまうような学生でも、本当にこの分野が好きな学生を入学させ、創造性あふれる育成をしています。

メイクアップのデモでは希望者が多数で、抽選の上 2 名が小林照子先生に、2 名が佐々木瑞歩先生に、計 4 名が体験しました。最近のスマホは、メイク前もきれいに写ってしまい、よくないよねえと言いつつ、くすみをマスクする下地の色を作り、色を重ねていましたが、混ぜると暗くなるのであまり混ぜない方がよい。つや、はり、透明感、赤みが大切で、赤み、ピンクを入れているとのこと。観察をしっかりとされ、立体感を再現していました。お化粧というと別人を創るというイメージでしたが、実際はそうでなく印象分析から始まり、その人のよさを引き立たせ、あたかも若返ったような、とても自然なメイクでした。

懇親会は近くの南国酒家で医食同源の特別メニューに舌鼓を打ちました。平山聡司先生の名司会で、バースデイケーキが用意され、小林先生と3月でご退任される堀田会長に記念品が手渡され、和やかな会となりました。最後になりましたが、ご協力をいただいた内貴美喜先生、関野里美先生はじめ、フロムハンドメイクアップアカデミー、美・ファイン研究所の先生方、仲介の労をとっていただいた元呑昭夫先生、ポスター制作の木暮ミカ先生、村瀬由起先生はじめ学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。



講師を囲んでの参加者一同

学会事務局よりお知らせ

庶務担当 村瀬由起
(朝日大学歯学部口腔機能修復学講座 歯科保存学分野歯冠修復学)

平成 27 年度より事務局が朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学へ移転してから、学会運営に携わらせていただきました。不慣れなため、皆様にご迷惑をおかけすることも多々

ございましたが、ご支援、ご指導いただくことで終えることができました。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

年会費納入のお願い

年度初めに機関誌と一緒に年会費納入のお知らせを同封させていただきました。未納の会員の皆様は、下記の郵便局口座に必要事項を明記の上お振込み下さい。よろしくお願いいたします。

振込先 郵便振替口座 00850-6-184321
口座名「日本歯科色彩学会」

住所等の変更がありましたら必ず明記をお願いいたします。

日本歯科色彩学会 事務局
〒501-0296
岐阜県瑞穂市穂積 1851-1
朝日大学歯学部口腔機能修復学講座
歯科保存学分野歯冠修復学

村瀬由起

murase@dent.asahi-u.ac.jp

Tel 058-329-1442 Fax 058-329-1442



【編集後記】

平成最後のニュースレターNo.63をお届けします。はじめに、本学会の会長を4年間務められました堀田正人会長にこの場をおかりしまして感謝申し上げます。先生は、日本歯科色彩研究会が発足された時代から入会され今日まで歯科の「色」の研究について熱い思いを抱きながら歩まれていたのだと感じました。今後とも日本歯科色彩学会の発展のためによきアドバイスを頂けたら幸いです。また、事務局の朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学医局員の先生方にも感謝申し上げます。

先日、2018年度の見学会が行われました。堀田会長の言葉にもありましたが、今後の研究は他科との連携が必要とのこと。まさに、そのきっかけになりそうな見学会でした。84歳現役のメイクアップアーティスト 小林照子先生の講演と実演は、現役だからこそその説得力ですぐ真似をしたくなりました。小林先生の「艶肌」のヒントはミイラの保管で使用する「蜜蝋」とのことでした。様々な分野に興味をもつ、視野を広げるは明日へのヒントにつながるのだと感じた一日でした。

(小澤有美)



日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会

金子 潤、中山友克、元吞昭夫、齊藤 誠、小澤有美